

## ◇谷屋誠市君

○議長（後松一成君） 続いて、7番の谷屋誠市君の一般質問を許可いたします。7番、谷屋誠市君。

（7番 谷屋誠市君 登壇）

○7番（谷屋誠市君） 私は二つのことについて一般質問させていただきます。

まず最初に、10年後の美郷町の姿はと題して質問させていただきます。千畑町、六郷町、仙南村が合併して美郷町が誕生してから7カ月が過ぎました。町長においては新町のかじ取りにお忙しい日々を過ごしていると思われます。私たちがこの合併の枠組みを決めた理由の一つには、以前から関係が深く似たような環境であり、また合併の規模が大き過ぎないことも一つだったと思います。町外の方からは美郷町というよい名前をつけたと言われることも多いのですが、町としての内容も褒められるようにならなければなりません。以前、大仙市の人と話した折、小さな美郷町はいずれやっていけなくなり大仙市と合併せざるを得なくなる。その場合は吸収合併だと冗談半分に言われたことがあります。町民の中にも余り大きな合併でなくてよかったという声がある一方、いずれ遠くないうちにもう一段の合併があるのではないかと心配する人たちもおります。

さて、昨年の11月に町長選挙が行われましたが、町長の後援会が配った資料の中で町長は、今後10年の基礎づくりをしたいと訴えていたと記憶しています。それは当然、美郷町が美郷町として継続発展していくための基礎を固めるということだと思います。財政、少子高齢化と福祉対策、農業、商業、観光、道路などの社会資本、役場の体制などいろんな課題があると思われますが、町長が考える10年後の美郷町はどのような姿をしているか、あるいはどのような姿にしたいのか、そのためにはどのようなかじ取りをしていくのでしょうか。特に次のことについて町長のお考えを伺います。

一つ目、農業、農家、集落の姿。当町の基幹産業である農業であるが、国の政策も変化していく中、どのような方向へ導いていくのか。10年後の美郷町の農業、農家、集落の姿をどのように考えていますか。

二つ目、少子高齢化と福祉対策。少子化が進み人口減少も続くと思われます。教育環境にも変化があると考えます。また、高齢化も進み、その対策も求められます。特に施設への入居希望が今以上にふえると思われます。10年後、町の福祉、教育環境はどのようになっているとお考えでしょうか。

三つ目、職場の確保。人口減少や少子化とも関連があると思われますが、若い人の定着には働く職場が不可欠です。働く場としては町内だけでなく大仙市や横手市など近隣もその範囲に含まれることとは思いますが、企業誘致がなかなか進まず、逆に中国などへ出ていく可

能性さえある中、働く場の確保はますます難しくなっていくと考えられます。10年後、町内、そして近隣の職場はどうなっていると考えなのか。そして、特に若年層の就職先の確保のためにどのような手を打っていかうと考えているのか。そして、最後に10年後、町長ご自身は何をしている、あるいは何をしたいとお考えでしょうか。将来構想としては新町建設計画や美郷町基本構想など合併協議会や町としてのものもありますが、それとは別に町長ご自身が考える10年後の美郷町の姿をお聞かせください。合併はゴールではなくスタートであります。誕生した美郷町がこの先10年、20年、50年と続き発展していくよう町民が一丸となって頑張っていかなければなりません。町長にはそのかじ取りをしっかりとお願いしたいと思います。

次に、携帯電話の不通地域についてお尋ねいたします。携帯電話の普及は目覚ましくその勢いに街中の公衆電話は取り外されるものがふえてきています。また、ビジネスにプライベートにいろんな場面で利用され、仕事によっては必要不可欠の存在になりつつあります。

そんな中、町内でも電波が弱く携帯の使用に支障を来している地域がまだあり、ほかの地域では普通に使えるものが使えないというのは同じ町民として不公平感を感じている人もいます。環境整備のため地域の人たちが必要としているものであり、不便なところほど携帯電話の利用価値はあると思われれます。19年には国体の自転車とバドミントンの両競技も予定されており関係者が全国から集まってきます。ロードレースのコースの中には携帯の使えないところがあると思われれますし、関係者があつたか山などを訪れることも考えられます。そして、何よりも地域の住民が不便を感じています。いろんな補助制度を使えるにこしたことはないのですが、地域に必要なものであり、均衡ある発展のためにも不通話地域の解消に町としても努力すべきだと思います。町内で電波が弱く携帯電話が使えない地域として町で把握している地域はどこか。町としてそれらの解消のためにどのような努力をしているのか。一昨年、旧六郷町の時にも一度質問しておりますが、その後の経緯、今後の方針などをお聞かせください。

○議長（後松一成君） 7番の谷屋誠市君の一般質問に対する答弁を求めます。松田町長。

（町長 松田知己君 登壇）

○町長（松田知己君） 谷屋議員のご質問にお答えいたします。

初めに、10年後の美郷町の姿についてですが、基本的には美郷町総合計画の基本計画において10年後の美郷町の姿を俯瞰して各分野で目標設定することとしており、その中で明示してまいりたいと考えておりますので、まずはそのことにご理解いただきたいと思います。また、そうした各分野の目標等を集積した町の将来像は、町民だれもが「住んでよかった、住み続けたいと思える町」であり、住民の気持ちとして「美郷が一番、好きです美郷」と思えるようなまちづくりを目指してまいりたいと考えております。

ご質問の個別分野の将来像についてお答えいたします。

初めに、農業、農家、集落の姿についてですが、基本的に農業の持つ課題はこれまでの歴史を俯瞰しても共通性を持っているように認識しておりますので、今後も同様の方向性を持って施策を展開していきますと、農業経営は複合的な経営が拡大するとともに、利用集積が進み施業的農業経営が強化されているものと存じます。また集落はその結果として地域コミュニティは維持しながらも農家、非農家の混在がより明確になっているのではないかと想定しております。

次に、福祉教育環境についてどうなっているかというご質問ですが、想定で答弁させていただきますと、少子高齢化については各般の施策展開によって一定の歯どめをかけながらも進展するものと存じます。そのため少子化に伴う学校統合や高齢化による高齢者同士の相互扶助、互いに支え合っていくという意味合いが強い地域社会になっているのではないかと想定しております。

次に、職場環境がどうなっているかというご質問ですが、これも同様に想定で答弁させていただきますが、日本経済がかつてのようなドラスチックな景気の浮き沈みがなくなって、成長するにしても低位成長ではないかと指摘する評論家の言を信じますと、基本的には現在の就業先を維持しながら各般の施策展開によって新たに企業等が立ち上がり幾らか就業構造に変化が出ているのではないかと想定しております。

最後に、私の10年後のことについてのご質問ですが、10年後は51歳になっている松田知己がいるわけですし、私として意欲を持てることに集中して時間を費やしているだろうと考えております。

それから、私の考える10年後の姿といいますのは、基本的には美郷町総合計画の内容と合致しておりますし、また合致していなければおかしなことになりますのでそこはご理解いただきたいと存じます。

次に、携帯電話の不通地域解消についてですが、現在、町内で携帯電話の利用が難しい地域は六郷地区のあったか山を含む沢目地域と千畑地区のラベンダー園を含む大坂地区となっており、地域住民を初めあったか山や大台野広場の利用者に不便を来している状況であります。こうした地域間の情報通信格差是正を図るために市町村が事業主体となって移動通信用鉄塔施設を整備する場合、国の補助事業がありまして千畑地区においては平成14年から継続して要望しているところであります。採択要件としては携帯電話サービス提供事業者が完全でないこと。施設整備後、いずれかの通信事業者の参画見込みがあることであり、県内でも要望数は年々増加する傾向にあるようです。県内の補助事業として採択された事案について地区内の世帯数の平均をとりますと、約300世帯となっておりまして100世帯以下は採算性の観点から相当厳しいものが予想されております。ちなみに沢目地区は100世帯以下でありまして、また

善知鳥、大坂地区は140世帯となっている状況です。六郷地区については昨年3月、NTTドコモ秋田支店に対して通話エリア拡大の要望書を提出しております、NTTドコモ側からは利用者の少ないエリアは難しい。もしエリアに入れるとしてもこれからは次世代型のFOMA対応になると。その場合、町で整備した光ファイバーケーブルの未使用部分の開放も考慮してほしいなども伝えられております。いずれ携帯電話サービス提供に当たっては移動通信鉄塔施設の整備以外に鉄塔施設までの有線による接続設備の確保も要することから、今後はNTTに対しても改善の要望をしてみたいと存じます。なお、企画課で通話の状況について現地調査をしたところ、ドコモ、ボーダフォン、au、FOMAの携帯4社がすべて不通、つまり圏外となる地域は町内にはありませんでした。何処しらの携帯は通じるという調査結果が出ておりますので、ご参考までご報告いたします。

以上をもちまして、答弁を終わります。

○議長（後松一成君） 7番。

○7番（谷屋誠市君） 先日の基本構想の説明会がありましたので大体そういうことかなというふうに思っておりますけれども、さらに10年後についても一つ二つお願いしたいと思っております。

一つ目は、自治体の運営にはほかとの差別化も必要で、例えば小学6年生まで医療費に踏み切った大仙市のように特徴を持った施策が必要と思われませんが、10年後に向けて美郷町としてどのような特色を持つ町にしたいと考えているのでしょうか。余りたくさんあっても焦点がぼやけると思いますので一つに絞ってお考えをお聞かせいただきたいと思っております。

二つ目として、住民の中にも「できれば合併したくなかったけれどもお金がないから仕方ないべな」と話してくれる方が何人もおりました。一昨年、六郷町の議員研修で一足先に合併した東香川市を訪れた際、隣接の讚岐市も含め合併後の状況は予想以上に厳しく、もう一段の合併の可能性もうわさされているとの話を聞きました。またさきに話しましたように当町でも再合併の心配をする方もおります。10年たってみたらまた合併の議論が起こっていたなどということのないようにしなければなりません。10年後、20年後、30年後、美郷町が美郷町であり続けるためにはどのようなことに留意し、どんな施策をしていく必要があるとお考えでしょうか。

○議長（後松一成君） 7番の再質問に対して答弁をお願いします。松田町長。

○町長（松田知己君） さまざまな分野があるわけですが、一つに限ってというご指摘でありましたので子育て支援の関係でお話ししますと、美郷町はほかの地域に先駆けて保育料、それから幼稚園事業料を2分の1支援する、さらには所得制限も撤廃しているというふうな特徴を持つ

ていますので、そういった部分を一つ一つ積み重ねることによって美郷としてのカラーが出てくるものと信じております。

それから10年後の再合併については、それをないようにするためにその礎が大切である。そのために今、美郷町総合計画をつくるということにご理解いただきたいと思っております。

○議長（後松一成君） 7番。

○7番（谷屋誠市君） 2万4,000人の乗った美郷町という船が途中で座礁などせずに将来に向けて航海できるよう頑張ってくださいようお願いして、質問を終わります。

○議長（後松一成君） 以上で7番、谷屋誠市君の一般質問を終結いたします。